

あごら

〈65号〉

1982年9月10日発行 ¥200 千40

今月のなかみ

〈編集担当・あごら事務局〉

情報	祝電・祝詞から	表紙のことは	これからの10年に向けて	福田光子
意見	反戦集会報告	10年の節に、新たな思いを	いま、私はこれが言いたい	紀平悌子／松本恵美子／丹羽雅代
報告	公選法改悪・教科書に怒る／優生保護法改悪阻止ハガキ作戦	あごらミニのミニあごらほか	女のつとめ、女の講座	梅津萩子
12	8	7	3	2

- 何でも言える●何でも書けるミニ雑誌〈あごらミニ〉
- 小さな〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉
- あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

ひと口に10年と言うが「あごら」の10年はただの時間の節というにはあまりに重い。今、ぐりぬけてきたそこに平坦な道がひらけているわけではない。重荷をふりわけにして越えてきたものでなければ知らない険しさを、あらためて噛みしめる10周年の全国大会であった。だから、寄せられた多くのお祝いの言葉は本当に有難くひとしおの感慨を覚えた。

女と男、女と子ども、女と家、老人そして障害者。海をへだてた女と女の関係もある。さまざまな関係の組み合わせの中で人は生きる。この関係性を問う中から男女の地位の平等も、あらゆる差別の撤廃も、こみ上げるものとなって叫ばれている。フェミニズム論もこの関係性の模索に基づいて展開される側面が期待される。

『あごら』が問いつづけたこの10年の課題は、女のさまざまなかわりを問い直しつつ既成の固定観念から自分を解き放つ意識の面の作業だったと思う。

さて次の10年。とりまく状況はきびしい。船の羅針盤は確かであると信じて、吹き荒れる四圍の状況に心を奪われる。揺れ動く現実を見据えることも大切だが、これまで一貫して問いつづけてきたものを実体化してゆく運動論が次の10年の課題のひとつではないだろうか。『あごら』

これからの10年にむけて

福田光子

「あごら」を出しつづけることが私どもの女性解放の運動であること、情報の収集とそれを手渡してゆくことを当面の運動として確かめつづけてきたが、このことは脆弱な足腰ではささえ切れなことが、最近のリブ関係の雑誌のあいづろをみてはつきりしてきた。会員の輪を広げなければ運動の経済的な基礎を築くことはできない。一人のつぶやきを複数の声にあわせ時流に抗して平和を呼びつづける草の根を国中にはりめぐらす運動も坦わなければならぬ。

全国大会、2日目。『あごら』の今後の方向性とテーマについて白熱した議論がかわされた。女と平和、ふたたび女と情報、全国のミニコミを集め、拠点を中心にミニコミを支える地域運動のネットワーク作りの構想も出された。

仕事を創る。女と仕事と創造。構造的に把える視点が、やがて歴史をひらく女を創り出す。次の10年に夢は広がった。さて、これから何を構築するのか。今、いろいろな目が注がれる。あたたかいまなごしは嬉しい。さしのべられた熱い手は私どもの心をゆさぶる。だが、それだけではない。お手並拝見の冷やかな目だけでなく、「あごら」をつぶす圧力だって時には悪魔のささやきのように耳をかすめることもある。訓練の第2ラウンドが始まっている。

●公開学習会

「女の自立を考える」

——アメリカの心理学者と対話して——

講師 しま・ようこさん

日時 9月28日(火)午後6時30分

場所 四谷公会堂3階集会室

(地下鉄丸の内線「新宿御苑前」
四谷寄り出口徒歩5分)

☎03 341 2991

*

●あごら可能性教室新講座

「自立のための心理学教室」

講師 しま・ようこさん

日時 10月12日(火)より毎月第2火

曜日午後6時30分～8時30分
第1期全6回(来年3月まで)

受講料 6回分3千円

場所 あごら読書室(地下鉄丸の内線「新宿御苑前」スク

内線「新宿御苑前」スク
(先着25名受付)

*

●あごら京王講演会

「『老い』を考える」

講師 大工原秀子さん

場所 (中野区堀川保健所)

日時 9月18日(土)午後2時～4時

場所 渋谷勤労福祉会館

(渋谷駅下車徒歩5分)

☎03 462 2511

主催 あごら京王・あごら事務局

連絡先 福井浅子

10年の節に 新たな思いを

——『あごら』創刊10年のつどい——

1日目 ひろがるへいらく

1972年2月創刊された『あごら』は満10歳半。ともかくも1つの区切りを越えたことを祝い、これからのいき方を考えようと、7月31日、8月1日、東京で「10年のつどい」を開きました。

第1日は新宿の厚生年金会館で、山下智恵子さんの講演「小説、熊沢光子——あるハウスキーパーの生涯を考える」で幕を開けました。

治安維持法下、活動家の「ハウスキーパー」として、身の回りのことはおろか、性的にも男に尽くしぬいた光子が、当の活動家がスパイであったと知らされ、男とともに心中することを迫られ、ついに獄中で自殺したままなまじい話は、戦前の階級闘争だけでは救い得なかつた女の問題を見事に描きだし、深い感銘を与えました。続いて各界からのアピール「いま私はこれが言いたい」。そのどれも、女の問題に関連しつつ、近づく戦争の足音に警鐘を鳴らすものばかり。山下さんの話とも関連して、いま私たちは何をすべきか、考えさせられました。（山下さんのお話は27号で紹介します）

*

第2部は立食パーティー。山下さんと梅津さんの迫力あるお話に思わず30分時間延長した第1部を受け、せきを切ったように発言が続きました。

司会是小島豊子さん。運営会議の3人の責任者をまず紹介。

斎藤（千代） 10年は、人間で言えばまだ10歳児。祝うのはおこがましいが、あの未熟児・虚弱児がよくもここまで育ったという親バカでこ



山下智恵子さん

「熊沢光子——あるハウスキーパーの生涯を考える——」

の席を設けた。『あごら』は、このような雑誌が必要でなくなる社会を目指して創刊したが、最近の状況は、この種の雑誌を、残念ながらますます必要としているように思われる。あと10年は頑張れの声に励まされ、何とか続けていきたい。これからの10年は今までの10年以上にきびしいものと思われるが、どんな小さな情報にせよ、情報を世に送りだすことの責任で身が震える思いをした。初心を忘れないことを改めて誓いたい。

高橋（ますみ） いまの状況では10年どころか100年は必要。女の場合が変わるまで灯を消したくない。自分は一介の主婦としてかわり始めたが、誰でもかかわれる「あごら」であったこと、BOCが財政的に支えたことが長続した理由だと思う。

福田（光子） 私たちが必要とする情報は、私たち自身が集め、送りだしていくほかない。そのための仕事を続けながら、自分たちの学

習を深めていきたい。

続いて2人の来賓があいさつ。

増田れい子さん（毎日新聞編集委員） ミニコミならではの『あごら』の情熱と哲学にいつも打たれる。『あごら』には女の同志、女の友人がいるという深い信頼を覚える。

半田たつ子さん（We編集長） まだ生まれたばかりの雑誌の編集長として、10年も先を歩んだ先輩『あごら』に感動する。『We』の10周年は『あごら』の20周年。ぜひ合同で祝いたい。

乾杯の音頭をとった東浦めいさん（NHK論説委員）は、「女の人たちだけで10年間も雑誌をつくり続けるのは本当に大変なことだろうと、マスコミにいる人間として感嘆する。



東浦さんの音頭で乾杯！



左から斎藤さん、高橋さん、福田さん

桑原武夫氏の言、"最も勇敢な兵士とは、あちらの岩陰、こちらの岩陰に隠れて、最後まで生き残つて敵を撃つものを言う"を皆様にぜひ覚えておいていただきたい"と、「30年も50年も続くこと」を要望。

続いて、最年長の石井雪枝さん(婦人問題懇話会呼びかけ人、元東京都婦人少年室長)はじめ、弁護士伊東すみ子さん、二宮純子さん、「声なき叫び」上映グループ、グリーンピース木村徳栄さん、あすなろ保育園・岩崎則子さん、日本家族計画連盟の飯島愛子さん、作家の林郁さん、ファッションデザイナー久野幸代さん、東海BOC桜井京子さん、じょうあん漆田和代さん、国立婦人教育会館情報課長大野曜さん、文部省社会教育課中条祐子さんなどが、それぞれの立場や問題をアピール、「ちがう価値感にも耳を傾けよう」というへあごららしい、幅広い層からの発言が、8時すぎまで続きました。

200 10年目の節を迎えて

第2日は、主婦会館に場所を変えて、内輪での討論会。各拠点の報告は、現在非常に好調なところも、問題をかかえているところも、それぞれ赤裸々に現状が語られ、互いの活動



に示唆を与えました。

斎藤千代さんのスライドと話「いま平和を考える——ニューヨークとハワイの平和集会に参加して」のあと、公開運営会議。今後の本誌のテーマをめぐる熱い論議がかわされたとの財政報告の深刻さには、「ミニ」

いま、私はこれが言いたい!

有権者の声の届かない国会に
危機的状况を憂う

日本婦人有権者同盟

紀平悌子

7月9日、自民党の単独強行採決で、自民党案の参議院全国区拘束名簿式比例代表制という公職選挙法の一部改正が委員会を通り、16日には本会議で可決、いま衆議院に回されています。ふつう法案というのは衆議院から出るのが、これは参議院議員のお手盛りで自民党法案なんです。自分たちの椅子を決めるシステムを、都合よくつくり変えるという大悪法です。

多くの有権者の方々が、実に根本的なことにかかわる大悪法だということに気づいてないようですが、来年7月の参院選で、投票所に行つてからびつくりなさると思います。

どういふふうに変えられるかと言いますと、まず、1人では立候補できない。自分が好ましいと思う個人には投票できない。無所属の個人で立ちたい人は、10人の候補者の名前を並べて立候補の届け出をしなければなりません。既成政党はすでに10名以上の候補者を持

て読んではいだけれど、現実の話を聞くと身につまされる。運営委員にだけ負わせるべきではない」と、カンパも相次ぎました。時間不足が残念でしたが、11月の公開運営会議でさらに運動論や財政問題を深めたいと思います。

● 3分間スピーチより

つていますから、これはまさに政党本位の改悪で、法の下の平等という憲法14条に違反しています。参議院であれば、30歳以上のすべての男女に立候補する権利が憲法で保障されていますが、それに反するものです。

また、投票する立場から言えば、自分の好きな人に投票できないという、投票の自由を、参議院全国区に限り奪われることになりました。これは実に重大な意味をもっています。衆議院の小選挙区制の時には、大部分の国民が総立ちになって反対しました。自民党が一党独裁に走る手段だと感じたからです。今度の全国区改悪は、衆議院の小選挙区制化の延長線というか、参議院の小選挙区制化されています。

自民党は、金のかからない選挙にするためと言っていますが、政党名簿に登録された人でなければ立候補できないというこの法律がもたらす危険性は測り知れないほど大きなものです。抱束名簿というものは、名簿に順位をつけて出すのです。たとえば自民党だと上位から30位くらいまでの名簿を出すわけですが私たちは、ただ政党にしか投票できない。その中の個人を選ぶことができないのです。宮田輝に入れたくても自民党に投票しても、宮田

輝が名簿の30番目だとすると落選する。議会制度ができて以来90年間、私たちは「人を選ぶ」ことをしてきましたが、今後は「政党を選ぶ」ことになります。政党離れが進み、無党派層がふえている現状に逆行するものです。それを強行採決したのは、これだと自民党が絶対第一党を維持するからです。参院選で第一党となり、次は衆議院の小選挙区制に移行し、教科書や靖国神社法など、やりたいことはすべて通すという一党独裁をねらっているわけですが、国民がそう受けとっていないところに大変大きな危険性があります。

婦人の問題にしても環境の問題にしても、教育の問題にしても、すべて国会で立法化されます。婦人運動や市民運動をしている方々はこの法律に反対しないと大変危険なことになります。情けないことに社会党と民社党は内々この法案を支持しており、8月17日には本会議を通過するだろうと、おかしいことに日程がもう決まっています。以前は強行採決でした。灰皿投げてけんかしながらやっていたのが前々から決まっていたのです。こんな議会政治ではありませんか。議会の制のルールの根本を決める選挙制度が、一党独裁の単独強行採決の形で決められる。——これは憲法改悪にもつながる悪法ではないかと思えます。

日本の国会があるべき姿で機能していないことについては、もつとちがう形にしたほうがいいという意見もありますが、現在の憲法では代議制民主政治の形をとっており、私たちの代わりの人に出てもらって、その人を信託して政治をやってもらうほかないのです。ですから、私たちの代理人として政治をやる

人を、私たち自身が選べないというのは大変なことです。有権者が政治をコントロールする力を弱めてしまふ。しかも金がかかる。名簿の順位を決めるときに贈収賄が必ずあります。政党の名簿登載権者が力を持つ。それは多分目白の住人だろうと予測されています。私たちが目白の住人の支配下に身を置くかどうかという大きな決戦場に立っているわけです。どうか一緒にがんばりましょう。

私たちの手で

優生保護法の改悪を阻止しよう

優性保護法改悪に反対する私たちの会

松本恵美子

私たちの会は、3月15日に衆議院の予算委員会の席上で優生保護法の改悪が出たのを契機に、急提、女の問題にかかわっている人々が集まってつくりました。

優生保護法は、6年ほど前にも改悪されそうになりましたが、再び出てきたわけです。刑法の中の堕胎罪は、明治40年に定められたものがそのまま生きているのですが、どんな方法であれ、すべての人工中絶は、懲役1年以下ですが、罪になります。

戦後の1947年に制定された優生保護法は、身体的または経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合には中絶を認めるという一項を加えました。現在、年間60万の届け出があり、実際はその2-3倍といわれますが、現在中央優生保護審議会で経済的理由の条項削除を審議しています。これが削除されますと、年間100-150万の女たちが堕胎罪に問われることになります。優生保護法の前身は国民優生法ですが、こ

れはナチスドイツをまねて、国家にとって悪いしき遺伝子をもつ子どもを抹殺するという思想に基づいたものです。それと国民の兵力であつたり、労力であつたりするわけですが、国家にとって必要な国民の数を決める、国家が子育を管理する、という悪法です。これがまた復活する背景として、自民党の家庭基盤充実政策があります。経済大国となつたいま、経済上の問題はない、中絶による道義上の問題をなくすというのが自民党の言い分ですが、女の経済性の確立がない社会、完全な避妊法のない社会で、女が中絶を選んでいるのではない、中絶を選ばされているのだと思います。中絶をして体を痛め、社会的にも精神的にもさまざまな圧迫を受けるのは、私たち女ですが、女が子を産むことによって生き方を制約されることのない社会になるまでは、中絶は女に残された最後の手段ではないかと思ひますが、村上議員と森下厚生大臣は、何としても国会が次の国会で通そうとしています。刑法や少年法の改悪の動きなど、一連の法改悪とともに、私たちにかけられている攻勢に対し、共にたたかていきましよう。

教科書問題の

底にあるものと女

〈あごら武蔵野〉

丹羽雅代

教科書問題が最近すごく騒がれています。これについて文部大臣と横枝さんが話し合ったとき、文部大臣は対外的な問題だと言ひ、横枝さんは国内的な問題だと言ひましたが、対外的な部分があるにせよ、私たちにあっては大変大きな国内問題だと思ひうんです。

というのは、教科書に書かれている中身は、まさに私たちの生活の中の価値観をそのまま反映している、あるいは望ましいあり方と思ひわれるものが書かれていると思うのです。敗戦直後の教科書には、ごく短い期間ではありましたが、反戦や平和について書かれていました。私は数学の教師ですが、1945年から5年ほど使われた教科書というのは、今から考えればほんとうにユニークなものでした。いわゆる生活単元といつて、数とか何とかいう立て方でなく、暮らしとか家とかいう単元があつて、そこから三角形が出てきたり、数の計算が出てきたりしていました。このころはほかの教科も今とは全くちがっていました。ところが残念なことに、朝鮮特需があり、景気が好転していくにつれ、戦前の思想と同じになり、大きくなれ、前に進め、登れ……がどんどん進み、またそれがうまうま……戦争への反省にしても、いささかやりすぎたのがよくなかつたけれども、軍国主義的侵略は悪いことではないということになつちやいました。

今度の問題で気になって、自分が使った教科書を調べてみましたら、やはり侵略ということばはない。進出になつてゐる。秀吉の朝鮮侵略は、あきれたことに朝鮮征伐になつてゐるんです。戦争はよくなかつたというとき、よくない中身は何かというとき、もう少し人道的にやればよかつたということになつてゐる。これはイギリスやフランスの教科書でも同じで、帝国主義に対してもまずかつたとは思ひえない。むしろファシズムに対して戦つたから大変すばしかりかつた。しかも勝つたからよかつたと言かれてゐる。アメリカの教科書にもアメリカ兵が沖繩の女を凌辱し虐殺したなど

とは書かれてゐない。教科書というのは、しよせんそういうものだろうと思ひます。しかし、だからといって、今の教科書騒ぎに対し文部省よざまアみると思ひたり、これで何とかなるだろうと思ひるのは、大間違ひだろうと思ひます。

私自身、中国に行つたとき、田満州の平頂山で、3000人の村民を皆殺しにした、ベトナムのソンミ事件と同じような事件や、万人坑といつて、炭鉱の坑道に朝鮮人労働者を追ひ込んで生き埋めにした事件の生き残りの人に話を聞きました。話のあとで町に出て、「ここが日本人がつくつた町ですよ」と案内してくれたのを見ますと、中国人がそのころ強制収容された満人荘というアパート群や、その人たちを立ちのかせて日本人管理者が住んでいた高級住宅街なんですね。

韓国では1人で歩いてゐたとき、カメラがこわれたので、写真屋に駆け込んで、片言の朝鮮語で一生懸命話していると、ついたらみなお店の人が日本語で話し始めたんです。こんな上手に日本語を話せるんなら、はじめから話してくれたらいいのにと思つたんですが、考えたら、彼が日本語をしゃべるときに引きずつてゐるさまざまのものを無視してはならないんじゃないかと、このときつくづく思ひました。

それから、これは身近な例ですが、立川市の朝鮮小学校の運動会を見に行つて感じたことです。この小学校は、移転問題が10年来解決しないままになつてゐるところですが、障害物競争で子どもたちが登る板にはアメリカ兵の絵が描いてあるんです。玉投げの的にはレーガンや金斗煥の顔。それを見ると、何かたまらないなアという気がしました。中国や

韓国・朝鮮の人たちと話し合ったことをひっくり返して、やっぱり簡単に帝国主義者と大衆人民とに分けて考えられない、少なくとも私は分けるわけにはいかないと思います。というのは、今の私たちの暮らしとアジアがどんな関係をもっているか、一つずつ事実を知って、それを大事にしながら暮らそうとするとき、分けることはできない。教科書の問題も、またまた起こったものではないと思うのです。私たちが何を大事にして、どういう質の暮らし方をつくっていくか、それには女の人があるすごく大きな責任をもっているんじゃないかと思っています。

女性解放の視点に、

子ども・老人・障害者も

〈あごら京都〉

塚崎美和子

私たち女性は、自立を考えると、ともすると、1人だけ、自分だけ、の自立を考えがちですが、実は私もその1人でした。

しかし子どもを産んで、子どもの存在を突きつけられたとき、何か重いものを子どもが背負わされたような感じがしました。子どもは24時間、誰かを必要とするわけです。おなかを空けば泣きますし、おシッコが出た泣きます。誰かがそばにいないと生きていけない存在、自分ひとりでは動けない存在を初めて見たと思いました。

それまではそんなことはほとんど考えず、仕事を持てばよいとか、経済的に自立していけばよい、それが社会的参加になるという発想でした。それが子どもの出現でくずれ、以来、私は悶々……。そして一時休業のつもり

で専業主婦になり、それから約10年、子どもたちと老人や障害者と暮らす日々を続けています。精神障害者の人々を家によって食事会をしたり、この間も一泊で海水浴に行ったりしましたが、障害者というのは仲間がいないんですね。それから、集まる場所が全くない。食事会も、以前は患者さんのアパートなどでしていたんですが、たくさん集まれないように、危いとか騒がしいとか、いろいろ苦情が出るんです。出て行ってほしいと締め出される。障害者や力のない者は世の中から捨てられていく存在なのかと気がついたとき、私はこのことを誰かと何とかやっていかなければと思うようになりました。

女も、障害者も、子どもも、老人も……。私たちは、言葉を持ってないと思うんです。言葉を持っているのは男たちです。それから力を持っている女たちです。私たちは、そういう人たちと分断されないよう、つながりを大切にしていきたいと思うんです。

女たちは、子どもを産んだり、育てたりするなかで、男たちが経験しないものを経験するのだと思います。女たちが百年単位、千年単位で蓄積したものを、女たちの側から男たちに伝えていく。突きつけていく。そして、女も男も、老人・障害者・子どもと「共に生きる、共に連帯できる社会」をつくりたいと思います。

ボルノは

戦争の伏線

LFセンター

織田道子

皆さん、ボルノをごらんになった方はあり

ますか。(拳手)——半数は経験がありだということですね。このボルノの中で女性差別が形成されていると、私たちは考えています。いまわかってはいるだけでも、日本映画の7割はボルノです。ボルノ産業は億という単位の大産業に成長しています。またスポーツ新聞にはボルノ漫画やボルノ情報が満載されています。全く男の人のための新聞ですが、これが900万部を突破したそうです。ボルノ雑誌の自動販売機も町角にあふればかりです。

私たちLFセンターは、80年から2年間、「ボルノは女への暴力」というスローガンを通して、ボルノがえがきたす悪質な女のイメージづくりを告発してきました。たとえばボルノのなかで、女はバカで幼稚だとか、女はみにくくて汚いとか、女はみだらだとか、女は皆同じだとかいう形で、あらゆるイメージが凝縮されている。それは正しく女性差別だと考えてきたわけです。ボルノでは、女は無価値だとか、性的なもの以外何もでもないと繰返し言っています。そういうイメージづくりが、強姦や、女や子どもへの暴力を生むと考えるを得ません。ボルノは女への暴力の教科書ではないかと考えます。

ボルノについては今まで賛否両論がありましたが、その中で女の主権はあったでしょう。賛成派は、性の自由、表現の自由、反権力の立場で賛成し、反対派は性はいけないものという道徳観で反対してきましたが、女にとってボルノはいったい何でしょう。

今日のボルノ論議の中では、わいせつか芸術か、さらにわいせつがなぜ悪い、人類のためのエロスだなどという言い方がされ、反権力、反体制といった形で、時代の先端を行く

ものとしてもはやされる傾向すらあります。しかし、私たち女にとって、ボルノは反権力ではない。ボルノに賛成している男の人は、社会を変えようなどとは思っていないと考えます。お配りしたチラシの写真にありまますように、ボルノというのは、女を服従させ、支配する思想の表われであり、この支配の思想こそ、戦争をひきおこす思想と同じものだと私たちは考えます。その証拠に、ボルノの中では、ナチスもの、軍国もの、強姦ものが永遠のテーマなんです。ボルノ三本立ての映画館に行きますと、軍国もの、戦争ものは必ず入っています。絶対的支配、軍国主義、男至上主義こそが、ボルノの本質です。女たちは決してそれを許してはならないと思います。

私たちはボルノを考える中で、ボルノが男の暴力の教科書なら、強姦はその実践だと考えるようになり、強姦をテーマにしたカナダの映画「声なき叫び」の上映活動を行なっていますが、その活動の中から「強姦救援センター」をつくる準備会も始まりました。皆さんのご協力をお願いします。

治安維持法の前駆、

拘禁二法

東京弁護士会副会長

井田恵子

いま国会に大変こわい法律が上程されています。刑事施設法案と留置施設法案です。二つをひっくり返して「拘禁二法」と呼んでいます。

これは、警察の留置所や拘置所での扱いを定めた法律です。逮捕とか裁判とか警察とか

言いますと、あまり関係ないと思われる方もあるかと思いますが、私たちはいつ何とき逮捕されないとは限りません。新聞にも誤審、誤逮捕がよく報道されています。

この二法は4月28日に上程されましたが、もともと明治41年に制定された監獄法の改正法として出されたものです。これは監獄に入っている人の管理と懲罰を主にした法律で、古色蒼然としたもので、人権保障の観点から早晚改正しなければならぬといわれています。ところが今度上程されたのは、人権保障どころか、逆に人権を侵害する法律になっていきます。以下、要点を申し上げます。

警察の留置所というのは、法律で決められた場所ではなく、現在は規則で運用されています。監獄法が定められた当時、施設の不足から当分の間監獄に代用するものとして認められ、本来は一刻も早く取調べ施設に移してそこで取調べるべきものとされていましたが、70年もそのまま続いてきました。弁護士会ではぜひこれを廃止すべきだと主張してきましたが、今度警察庁から出されたのは、廃止どころか留置施設法案によって規則を法律化しようという恐ろしいものです。

ご承知のように、警察の留置所ではいろんな拷問、リンチがあり、多くの冤罪を生んでいます。今どき拷問があるかとおっしゃいますが、現在も昔と変わらぬ拷問があります。そういう中で取調べられれば人間の忍耐にも限りがあり、長期間の拘留のもとではたいてい苦しまぎれの自白をします。これを裁判でひっくり返すのは並大抵のことではありません。人生の半分どころか一生を棒にふるって、賠償金をもらってもその人の人生は返りません。何といっても逮捕時点での人権保障が一

番大事ですが、この代用監獄を恒久化すると大変な問題になると思います。

また、この二法では、弁護士との面接、手紙のやりとりを大幅に制限できることになっています。逮捕された人にとっていちばん大切なのは、できるだけ早く弁護士と面会することです。それで勝負が決まるといっても間違いいではないと思うのですが、この法案が通れば、施設の管理運営上とか証拠隠滅などの理由で、施設の長の判断で制限できるように なります。5時を過ぎたからとか、祭日だからとか、いろいろの理由で弁護士に会わせないということが起きてくると思います。

この施設法案は、さらに、人権よりも、規律秩序というか、管理を優先しており、秩序や助手の命令に従わない者に対する懲罰などを定めています。今でも留置所の中では正座しなければならぬとか、つまらない規則があるのですが、たとえば大声を出したなんてことでも懲罰の対象になります。

しかも、今でも使っていないような恐ろしい拘束具も使うことになる。猿ぐつわは現在、危険だからあまり使わないことになっていますが、これも使う。拘束ベッドに縛りつけるなど、身の毛もよだつような恐ろしいことになります。

それから、女性にとつて大変重大だと思えます。中に入る女性の身体検査を男性の警官ができるということです。現在は婦警に限られていますが、中に入ると一応ハダカにされ、身体検査されるわけですが、過去に男性警官からどんなひどい暴行をあびせられ、はずかしめを受けたか、枚挙にいとまがありません。また女性の弁護士も、面会の際、所持品を検査される。これを男の警官がして

よいという規定もあります。

現在、刑法法の少年法だの、立法作業が進んでいます。この拘禁二法とドッキングすると、まさに警察国家の再来になるのではないかと恐れます。廃案へ向けてご協力をお願いします。

戦前の治安維持法を

体験して

梅津 萩子

皆さん今晚は、80歳にもなるので、私の話はわかりにくい点もあるかと思いますが、勘弁してちょうだいね。

私、4、5日前、新聞で、中国侵略を進出に換えたという記事を読んで、はらわたが煮えくりかえったのです。私の夫は昭和12年の7月末に召集されて北支にやられ、3年いて帰ってきました。戦地で日本の軍隊がどんなことをしたか聞きました。だから、この書き換えは日本の軍国主義が頭をもたげてきた感じがします。拘禁二法とも不可分な感じがします。戦前、たくさんの労働者や学者やいろいろな人々を殺したり、十何年も監獄に入れた治安維持法も、初めは決してそんな恐ろしいものではなかったんです。

私が初めて入れられたのは大正14年の1月で、労働者を扇動してストをやらせたというのが理由でした。その時は検束というとい日で、次の日の日没には釈放したのです。私も引っぱられたのが1時半、翌朝9時ごろ呼び出されて特高室に行きますと、会社の工務主任が、「君が帰るまで皆が仕事をしないと、いうから返してほしい、要求は全部聞く」と

言つて、生まれて初めて自動車に乗って帰った。そういう治安維持法だったんです。

その後、私たちは「無産者新聞」を毎週土曜、駅に売りに行くときは、南ブラシと手ぬぐいをふところに入れて行ったものです。特高が来て逃げられる時とかまる時がありました。でも、日曜の夕方には釈放されるので、仕事には何らさしかえなかったんです。

それでも会社をクビになりました。新聞に書き立てられ、どこにも就職口がなくなり、三度のごはんが食べられなくなった。で、夜10時すぎに革命歌を歌いながら歩いていたら引っぱられたんです。「夕飯食べてないから出せ」と言ったら、夕飯は5時だから出せな」と言う。でも最後には夜泣きうどんをとってくれた。そのうどんのおいしかったこと、今でも忘れられません。

それが山東出兵したり、だんだん侵略をするようになったら残酷なものに変わっていった。横浜から昭和2年に東京に移ってから、7回入れられましたが、初めは大したことがなかったのに、侵略戦争が進むにつれてものすごくひどい拷問を受けるようになった。自分の拷問よりも切なかったのは他の人の拷問を見せられることでした。今でも思い出すと煮えくり返る思いをするのは特高に虐殺された岩田義道さんの拷問です。

このとき引っぱられる前に、私はアジトの大家さんから数金の百円を返してもらい、細かく畳んで持っていました。この百円札は党のお金だから絶対に守らなくては、と、スキを見て口に入れちゃったんです。そしたらイヤな臭いがして、ゲオツゲオツと吐きそうになるんですね。「お前つわりか」「そうです」と言いました(笑)。

特高室に入りましたら、奥のほうに体の大きな36の方が、いすに足の先まで縄でゆわかれていました。その人は顔は紫色。赤いネクタイで首をぐっと締められ、やっと生きている状態です。「お前これを知ってるか。首を振ると、「このやろう生意氣だ」と、蹴飛ばされたり、踏まれたり……。」「しばらくたつてダメだよ。これは岩田義道だ」。

私が蹴飛ばされたり踏みつけられたりするのを岩田さんが見て、「貴様ら、それでも人間か」と言う、その声の苦しそうだったこと、今でも忘れられません。

別の警察で、金さんという朝鮮人の拷問も見ました。便所の水道のホースを金さんの口につけて蛇口をひねると、おながみるみるうちにふくらむ。それを特高がぐっと踏む。すると口から水がサッと吹き出す。とても見ていられませんでした。

私自身に加えられた拷問で一番つらかったのは、座らされたヒザの上に三寸角ぐらいの棒を渡して、両方に特高が足をかけて、ぐるぐるつと押すのです。もがみるみるうちにふくれ上がって、黒に近い紫色になる。お手洗いに行ってもしやがめないほど痛みました。まだまだきりがいいほどいろんなことがありました。本当によく生きてこられたと思うような体験を経ました。

そして、いましみじみと思うのは、侵略を進出と言う空気が出てきたことは、拘禁二法案と不可分、治安維持法の復活、戦争につながることはないかという気がしてならないのです。

二度とあの苦しみはしたくない。皆さん、婦人の力で何とか食いとめるようがんばりましょうね。

祝電・祝詞から

(順不同)

おめでとうございます。おたがいのために「あごら」の一層おさかんでありますように。

(佐多稲子)

ここまで発展した皆様の御努力に心から敬意を表し、心からの声援をおおくりします。

(貞閑 晴)

地味な活動をたゆまず続けられ、着実に成果を積み重ねてこられた皆さんに、大きな敬意を表します。今後ますます粘り強い活動が必要になってくるでしょう。お互いの存在が励みになるように、やっていきたいものです。

(中山千夏)

二盛会を心からお祈りし、「あごら」がこののちも女たちの行くてに明るい灯をともしつづけられることを期待します。

(小沢遼子)

女性雑誌の少ない中で、日本における理論的向上に一層の貢献をして下さるよう、心より念じております。

(柴山恵美子)

とてもむずかしい時代に10年の歴史を刻んでこられた「あごら」に敬意を表し、今後ますますの発展をお祈り申し上げます。

(森山真弓)

もう10周年ですものね。「婦人民主新聞」がニュース中心主義なのに対し、「あごら」は問題を深めてくださって、とてもありがたいものでした。二盛会にあたためて敬意を表します。どうぞ、今後ともがんばって下さいませ。

(近藤悠子)

10年一つのことを続けてこられた皆様のエ

ネルギーに感動するばかりです。

(米津知子)

ひと口に10年といっても、いろいろな山や谷があったことと思います。心からお祝いたします。

(山崎朋子)

もう10年なのです。御苦労の連続の皆様には、やっとなし上げたほうがよいのでしようか。とにかく貴い積み重ねであったと思います。

(山崎朋子)

国立婦人教育会館ではたいへんお世話になりました。全国的な規模の交流集会のとき、いつもどこかの「あごら」会員が参加して下さるのも嬉しいことでした。一層の御発展を心からお祈りします。

(縫田暉子)

『女エロス』最後の合評会のためうかがえませんが、「あごら」、今後ともがんばってください。

(吉清一江)

東京・名古屋・京都と、「あごら」のネットワーク、見事です。私も50歳の節を迎え、平和と婦人問題のため、ますますがんばろうと思います。

(中山恵子)

皆様の粘り強い歩みに敬意を表します。今後二盛会を願ってやみません。私も頑張ります。

(池谷まゆみ)

二盛会を心からお祝い申し上げます。今後ともますます発展されますよう、お祈りしてやみません。

(石本 茂)

御誌はいつも興味深く拝見いたしております。若い力をこれからも婦人運動に結集されんことを祈り上げております。

(柳瀬路子)

10周年！ 早いものです。ここまで続け

ていらした持続に脱帽する思いです。心からお祝い申し上げます。どうぞ11年目のためにがんばってください。

(福本英子)

手と手が結びあい、大きな輪となり、世界じゅうに「あごら」の仲間の声をかなでましよう。

(内田佳崇)

この10年、日本の婦人問題の活動の中で、「あごら」ほど新鮮で充実したグループはなかったように思います。ますますの発展を期待しております。

(山本ふき子)

「10年前というところ？」……「早いものです。何はともあれ、皆さんごろうさま。これからも元気で！」(小川徹子)

山積する課題と偏見の中を拓いてこられた10年の実績に深い敬意を表します。ますますキナ臭い世の中、今後の健闘をお祈りいたします。

(津田正夫)

これからもどうか頑張りてください。いや頑張りましょう。お互いに。皆さまの御健康と御健闘をお祈りします。

(時枝俊江)

日頃の御活躍に拍手を送っています。ますますの御発展を期待しています。

(粕谷照美)

いろいろな人が「モノを言う」ことで新たな出会いと連帯ができることを期待しています。

(丸山和興)

たくさんさんの創刊がありながら大部分が消えていくなかで「あごら」が10年を迎えられたこと、その御苦労を今さらながらお察し申し上げ拍手を送りたいと存じます。今後ともどうぞがんばってください。

(石井セイ)

|| 集会報告 ||

高橋倭子

8月5日夕

原爆ドームに程近い中央公園の広場がきょうの会場だ。草の根元年といわれる今年。多くの人々に開かれた大会にしようと、屋外に出たという。

ようやく和らいだ陽ざしの中に、折り鶴行進の人々が次々入場する。色とりどりの折り鶴のレイを首にかけての静かな行進だ。幼い子どもたちもまじっている。

5時半過ぎ開会、手拍子にのって31か国88人の海外代表が入場。犠牲者を悼んで黙禱を捧げたあと、主催者側から今堀誠二さんと大友よふさんが、海外からは国連軍縮センターのP・ダビニツチさん、アメリカの作家シンドニー・レンズさんが、それぞれスピーチをした。

— 第2回国連軍縮特別総会は期待を裏切つて何の成果もないまま終わった。しかし反核運動は百万人もの人をニューヨークに集め、世論のもつ役割をあらためて確認させた。

核軍備は、管理を任された人間をケダモノにしてしまう。想像以上に切迫している核戦争の危機を阻止するため、世論の力を行使しよう」が一致した要点であった。

そのあと、イブ・シモンさんや佐藤光政さんの、反戦の希い溢れた熱唱や、中学生らの演奏が広場の雰囲気盛り上げた。

すでに夜に入った終幕近く、全員のダイ・インに入る。炸裂音と共に3万人の参加者が一斉にその場に倒れ、死を表現して、核兵器を使用する者への抗議を表わした。

最後に「ヒロシマ・アピール」を採択し、全員合唱で幕を閉じる。海外代表は思い思いのプラカードや垂れ幕を持ってステージに勢揃いし、「原爆許すまじ」の大合唱に和した。

草の根の人々の連帯は、果たして狂気の暴走の幽止めになり得るだろうか。この小さな惑星が、永劫の廃虚と化してしまわないうちに、断崖のふちから引き返してほしい。そのために私は何ができるだろうか。問い直したたけ。ヒロシマの夜であった。



世界大会2日目の分科会は、「婦人の広場」に。参加者720名。海外からの招待者6名。

冒頭、主催者代表の紀平悌子さんから、昨夜、アメリカの地下核実験が行なわれたこと、それに「婦人の行動を広げる会」の名で抗議したことが告げられ、新たな怒りのうちに集会は開かれた。

紀平さんの熱のこもったあいさつのあと、
8人の代表の発言にうつる。

沼田さんと名越さんは、被爆者として「今のような危険な状態を見過ごすのは、再び過ちを犯すこと。文字どおりの生き証人として核兵器の完全禁止を」と訴える。悲痛な体験をのり越えて語りつぎ運動に命を注ぎこんでいる人のこの言葉には千金の重みがあった。

次に田代さんが基地問題をヘリポートの新設に疑問をもった母親たちが調査したところ、大和田通信基地に核戦争の最新基地としての準備が着々と進んでいることを知り、反対運動に立ち上がった経緯を報告。

働く婦人の立場からは、根岸さんが「婦人の労働権確立と反戦の闘いは一体」と呼びかけ、沖繩からは宮里さんが、沖繩戦の悲惨さや、教科書問題に触れた。

被爆2世からの発言は垣内さんが。水頭症、あざらし症、内臓が左右逆という三重奇型の黒い赤ちゃんを死産した経験を泣きながら話し、差別と偏見を恐れて口に出せなかった苦しみを、今、核廃絶のためにと訴えた。

海外代表のパールさん（国際民主婦人連盟インド）と、ワッツさん（スリーマイルアイランド）からは、厳しい中にも心あたたまる連帯のことが寄せられた。

午後の参加者発言は、希望者多数で、62名中35名のみが発言できた。

原発・基地・非核地域宣言、平和教育・教科書等の問題、原爆映画の上映・被爆体験収録活動、一票の行使等に取り組む人々の活発な報告のなかに今後の方向性が示される。

最後に田中里子さんが、「主催者報告」
「東京宣言」ヒロシマアピール」をこの1年
の学習資料に使い、地域の中でやっていた
行動から始めよう。組織だけでなく、草の根
にもきめ細かい運動を広げよう」としめくくる。

「ヒロシマからの婦人のうったえ」を採択のあと、*「原爆許すまじ」*を合唱。つないだ手と手の温かみを残して、閉会となった。

●戦争への道を許さない女たちの会・新潟
(8・8新潟)

斎藤千代

ニューヨークに行く前から1日も休日のない毎日、少しけだるかったのですが、新潟からの呼びかけに応じて重い腰をあげました。去年「竈のうた」という、庶民の目からみた女性史を出した「新潟の女」に会いたいという気持ちもありました。

8月8日、会場に着いてみると、持ちよりの手づくりのおにぎりやおかずが用意されていました。シルクでつくった手製ボスターには、講師とか助言者でなく「討論を深める人」と紹介されているのもうれしく思いました。最初に1時間半、昨年の「たちきろう戦争への道」集会以来、それぞれが考えたこと、実行したことが語られ、1時間の私の話ののち「これから何をするか」の討論がまた1時間半。口の重い雪国の女を想像していました。の、どの方も実にきつちりと足もとを見つ

めながら的確にハキハキと発言され、時間が足りないほど。百人たらずの集会でしたが、地方にもたしかなたちの芽がすくすくと育っていることを強く感じました。

多くの若いお母さんたちが、むすこは戦争に出しませんと話されたのが感動的でしたが、ニューヨークの集会で、各国の女性たちが、「この子たちは1985年には生きていないだろう」と訴えた切迫感を、どうつなげていけばいいのだろうと、心が痛みました。私の記憶にはない「戦前」も、多分のどかで、平和で、戦争は遠いことに思われていて、ふと気がついたら戦争が始まり、とめどなく拡大していったのでは……という思いがしてならないものですから。

●ジャーナリズムは戦争を阻止する力になり得るか (8・14東京)

大原 立

新聞の催しもの欄で見て、急ぎ駆けつけた。小中陽太郎、安江良介ほかパネリストが豪華ということ以上に、このテーマにひかれたからである。それは「あごら」の課題でもあるから……。

共同通信の丸山重威氏の司会で、まず4人のパネリストが現状と問題点を分析。マスコミもことはよくやっている(隅井孝雄・放送ジャーナリスト)といった発言もあったが、「世界」編集長の安江氏は、特に朝鮮・韓国問題を例に引きつつ①おかしげな議論に対する有効な対抗力になり得ていない②編集者・執筆者とも、全体的に論理の質が落ちて③明らかに組織された「批判」がある、など現状を指摘。軍事化・右傾化も、現段階

では質的に異なったものになっているが、ジャーナリズムの中に、たとえば講和30年で安保体制を評価したり、経済大国化を認めるなど、情況追認はなかったかと、強烈に問題提起したのが印象的だった。

これに対する答えの迫力のなさに、よほど挙手しようかと思っているとき、場内の中年の女性が、「自分はジャーナリズムとは無関係の主婦だが」と断わりつつ、戦時下の報道の偽まんをつき、会の題を「ジャーナリズムこそ戦争を阻止しうる」にすべきではなかったかと発言、「励ましのことばと受け取る」と、それに救われたように会が終わった。

「ジャーナリズム」の中に何が含まれるか、最初に討議もないます。たとえば小中氏は、「ミニコミはもはや衰弱」と、あっさり片づけたが、私たちミニコミ制作者が会を開くなら、あえて「ミニコミは戦争を阻止する」と名づけるところが……という思いが胸に残った。ジャーナリズムの戦時中の加害性についても、もっと討論されるべきではなかったか。

●8・15戦争への道を許さない女たちの会 (8・15東京)

横田さゆり

ことしも渋谷駅頭、ハチ公前、と何となく不文律のように思い込んでいたら、テレビのニュースで「明日は共産党がハチ公前で」と放送している。驚いて事務局に聞くと、ともかくできるだけ早く場所どりを、とのこと。日曜早朝駆けつけると、7時前というのにもう20人近い女たち。吉武さんは昨夜9時から車の中で徹夜とか。小さな宣伝カーが2台、場所どりにしている。

8時前、共産党の巨大な宣伝カーが到着。立て看やパネルを慣れた手つきで並べる。昨日からの懸命の抗議で、10時50分までに妥協。不破委員長の演説を最後に、共産党が定刻きっちり退去したあと、女たちの第一声が始まる。ことしも司会吉武輝子さん。まず紀平悌子さんが「座っているのは平和は決して手に入らない。来年の地方選、参院選、そして日常生活こそ」と強調。続いておなじみ忍草母の会の3人がモンペ姿で。「花も薬草も採



れる北富士の、生活の8割を演習場にとられている」と、基地撤廃こそ平和への道の訴え。主婦連の中村紀伊さんは、「消費者運動ではたびたび街頭に立ったが反戦運動は初めて」と断わりながら、「88歳の母、奥むめをが、毎日、女はなぜ怒らないのか、自民党の傍若無人を許すのかと私に迫る。軍事費増大は戦争への道。女の怒りを結果しよう」と、「もうだまっではいられない」と訴え。俵萌子さんは、「燃えた英語の辞書の文字がネガのように反転していた」14歳の悲しみを語り、「外国に怒られるような教科書を作らないために、公

選の教育委員会をふやそう」。ブルーの帽子の山崎朋子さんが「私は声が出ないほどの弱虫でございますが、だまっではいられないと……」と発言し始めたとなん、激しい右翼の妨害。かねての打ち合わせどおり、サツと吉岡志げ美さんの歌、宮子あずささんら、若手の反戦歌唱指導で全員歌声を響かせる。「戦争反対」「女は戦争への道を許さない」は、手話で訴え。さしもの右翼もボルーデジが下がったところで山崎さんの続き。「中国を訪れたとき聞いた老婆の話が忘れられない。18人家族の17人が日本軍に殺されたと、大地を叩かんばかりに号泣して語った。臨月の女を何十回も犯し、胎児を銃剣の先につけて行進した日本軍。この事実を、日本の民衆の誇りと責任において、まずは知ることです。無知ほど罪悪はない」。胸迫ることばに会場からは万雷の拍手。

右翼のしつような妨害はその後も続いたが女たちは手をとりあって歌い、手拍子を打って「無視」。はりあいもなくした彼らの声は夕方には蚊が鳴くほどになっていた。妨害の規模は昨年のほうが大々的に感じられたが、ことは竹ざおでついたり、発煙筒を車の下でたくさん、いやがらせは一段とエスカレート。陰で彼らをあやつっている者の黒い姿が昨年にもまして強く感じられた。

7時、予定どおり終了。発言者は、十返千鶴子・下重暁子・河野貴代美・青木やよひ・駒野陽子・近藤悠子・牧瀬菊枝・金子みつ・高木敏子・沢地久枝・高良留美子・斎藤千代・柴山恵美子・福井浅子・大倉八千代・北沢洋子・山下正子・五島昌子・中島通子・永畑道子さんなど、30人を越え、そのどれも熱情あふれるものだった。

公選法改悪に怒る！

私たちが知らないうちに、いつのまにか参議院から「全国区」がなくなっていた！

今回の無法な改悪を怒る声が、続々事務局に寄せられています。普通選挙法や婦人参政権を得るためにはどれだけの苦労を重ねられたかわかりませんが、それに匹敵するともいわれる大変革が、党利党略のうちに「取引き」されてしまったことは本当に残念です。

今回の改悪は、「野球で勝っているチームが、次は負けるかもしれないからと、勝っているうちに、勝っている側に都合のいいようにゲームのルールを書き換えた」と感じられます。全国区は「お金がかかる」というのが大きな理由になっていますが、「お金をかけない選挙」を貫いた市川房枝さんがお開きに

なったら、墓石が揺れるほどお怒りになるのではないのでしょうか。明らかに無所属、無党派層の締め出しではないのでしょうか。

何より心配なのは、国民の国会離れです。議会制民主主義が崩れるとき、ファシズムが台頭した歴史を思い出します。一つの無法を許せば、また次の無法がまかりとおるでしょう。「公選法改悪を考える女たちのつどい」を開きませんか。

教科書問題に怒る！

さしもおだやかな「あごら」も、怒り続けます。明白な歴史的事実の書き換えを「侵略の準備」と受けとったアジアの人びとに、何と詫げればいいのか。それを「ことばのアヤ」で釈明しようとした態度に、怒りに加えて、恥ずかしさと恐怖を覚えます。何の

ために、アジア全域に、あれだけのたくさん血を流したのでしょうか。いまだに戦争の傷は癒えていないというのに！！

「侵略」を「進出」と書き換えるとき、「進出」と称する侵略がまたも行なわれるだろう」と受けとめたアジアの人びとのリーダーに私たちも共感します。東京ではすでに8月15日と21日に「教科書問題を考えるつどい」が持たれましたが、各地でも火の手があがっています。横の連帯のなかに、この問題を考え、すみやかな改正を迫っていきましょう。

（連絡先）教科書問題を考える市民の会
03 2611 9739

ミスコンテストに怒る！

（あごら東海）奥村和子
ミス七夕、ミス着物、ミス〇〇市、ミスカ

メラ……と、年中、全国いたる所でミスコンテストをやっている。女性。独身。若いこと。男性から見ると容姿が美しいと思われること。これがどこでも共通した条件である。

5月26日、名古屋でも「ミナナゴヤコンテスト」がおこなわれた。当市と姉妹都市のロサンゼルス市とメキシコ市の親善を深めるための使節として両市を訪問したり、市内の行事に参加したりする。

親善を深めるのに、なぜ、男性の一方的な美的感覚を価値あるものとし、女性を性の商品としてしか見ていない、いわゆる「ミス」をコンテストとして募集しなければならぬのか。しかも、それを男女平等を推進している名古屋市が、なぜ、後援するのか。これについて、あごら東海、愛知婦人研究者の会等5団体が、公開質問状を出した。

しかし26日、コンテストはおこなわれ、ミナナゴヤは決定した。当日、出かけて行った仲間、整理券を持っていたのに「何もやらないという保証はないから」と、中に入れてもらえなかった。ゼッケン、ブラカードは持たなくても、服装だけで、黙っていても警戒されてしまう。不安なのだ。

7月1日、市長名で回答があった。「親善として必要だから理解してほしい」とあったが、ミスコンテストが悪いという私たちの訴えが、全くはぐらかされてしまっている。なぜ女性だけがいつも男性のイメージにあてはまらなければならないのか。女性のほうも、人として同等に生きていけないから、そのイメージに少しでも近づこうと努力をすることになる。

しかしその努力は、そういう価値観をくずすことに費やしたい。

あごらオリジナルの 封筒・便せん・ポケットノート ができました

〈あごら〉の活動資金を何とかして生みだしたいと、つくってみました。便せんは、緑色のたてケイ入りのと、うす緑色の地色でイラスト（4種類）入りの2種。封筒はタテとヨコがあります。ポケットノートはオレンジ、黄緑、ピンク、ブルーの4色。ぜひお使い下さい。お申し込みは事務局または各拠点まで。

ポケットノート



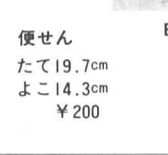
オレンジ・緑・水色・ピンク
¥200（5冊組）



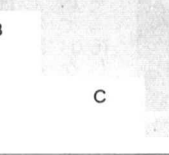
便せん
たて25.3cm
よこ18cm
¥200
封筒（長）
¥100
（10枚）



¥150
（10枚）



便せん
たて19.7cm
よこ14.3cm
¥200



封筒（角）
たて15.5cm
よこ10.5cm

◆反核カンパを集めた方へ

「ミニ」7月号を無料でお送りします。

「あごら」の署名用紙で署名とカンパを集めた方々へは、すでに領収証をお送りしました。が、提金者に報告を渡したいという声もあります。斎藤千代さんの「署名簿見届け」ニューヨーク報告が掲載されている63・64合併号を必要部数だけ無料でお送りしますので、ご連絡ください。なお恐縮ですが、送料の実費だけは、切手で結構ですから、ご負担を。5部まで45円、20部まで50円、40部まで55円、(第三種郵便物)

優生保護法「改正」阻止のため ハガキ作戦に参加しよう!

今国会で審議未了に終わった「改正」案が、12月の国会に再び提出されることは必至です。万が一にも法案可決ということのないよう、総理大臣、厚生大臣に抗議の意志を表明しましょう。

有志グループにより同封のようなハガキも作られ、既に行動が開始されています。自筆のものでももちろん結構です。お問い合わせは左記まで。

●優生保護法「改正」阻止連絡協議会

●住所 〒162東京都新宿区市ヶ谷砂土原

町一―二保健会館内(社)日本家

族計画連盟

●電話 (代)東京03 269 2101

内線650または655

(直)269 6595

◆湘南地方の会員の方へ

湘南地方にも「あごら」を、という思いをもつ一読者です。9月25日午後6時から「あごら26号」の感想を中心に、日々の暮らしの中で湧いてくるいろんな気持ちを話しあいましょう。

(平塚市在住 佐藤のり子)

(なお、東京は9月17日(金)。詳しくは12頁を)

◆6・7月分会費・基金の受入状況

〈6月〉82年度分会費29人 33万9000円

81年度 16人 5万6000円

83年度 15人 4万8500円

基金 7人 15万0000円

〈7月〉82年度分会費44人 12万5100円

81年度分会費3人 8000円

83年度分会費9人 1万8000円

基金 6人 5万2000円

8月23日現在で、今年度分会費納入者は、662人です。昨年度の同じ時期に比べますと、約倍額の会費が納入されていますが、81年度の会費未収金(210万円)の回収は、必死の努力にもかかわらずはかばかしくなく、8月20日現在で、総額50万3200円です。

あごらMINIのミニあごら

◆韓国の被爆者を救済しよう

韓国に在住する被爆者のことをご存じの方

もいらつしやるかと思いますが、ほんの数

前は「ヘー」韓国に原爆が落ちたの? 知らな

ったわ」ということを聞いたものです。彼

らは1945年8月6日・9日に「日本人」

として広島、長崎で被爆せられ、戦後は「外

国人」として日本から責任ある補償はされま

せん。「日本人は唯一の被爆国民だ」という認

識がまだまだ常識になっていますが、「なぜ多く

の朝鮮人が日本で被爆せざるをえなかったの

また新入会は6月7名(調布市、台東区、墨田区、江東区、相模原市、名古屋、福岡市)、7月9名(佐世保2名、葛飾区、世田谷区、千葉、相模原、狭山、太宰府、大野城各1名)

(編集後記)

「10周年のつどいのチラシはまだ?」「切符は?

」など、各地からの声におおられて、印刷

がやっとできたのが7月初め。なんとも手お

くれなことがかりでしたが、ともかく無事終

りました。何分にも実行委員は全員忙しい

ビジネス・ウイメン。とくに委員長は毎晩10

時、11時まで残業で、予定していた打ち合

せが流れたことも何度か。実情を知る者とし

ては、それにしても、ほんとによくやった!

という感じがします。封筒・便せん・手帳も

すべて「急製乱造」になりましたが、「あご

ら」発行資金の一助に、ぜひご協力ください。

なお、紙面の都合で、掲載予定の斎藤千代

さんの「アメリカ報告」は中止しました。そ

の代わり、ご要望があれば、どこへでも、交

通費実費だけで、スライドを持って話しに行

きますとのこと。時間の許すかぎり。

か」を歴史的に考えてみると日本は原爆の被害者であると同時に、在韓被爆者に対しては加害者の立場にあると言えるでしょう。

私たちは会報やパンフレット(No.1, No.2)

を出したり、パネル、ビデオの貸し出しをし

ています。まだまだ在韓被爆者の願いには程遠

いのですが、これからもがんばりたいと思

いますのでご協力下さい。

へ韓国の原爆被害者を救済する市民の会

連絡先 〒565大阪府吹田市桃山台3-36-13

松井方 ☎06 871 3446

日本図書館協会選定図書

婦人民主新聞

縮刷版

婦人民主新聞は敗戦の翌年八月から現在に至るまで、女の手によって週刊紙として休むことなく刊行されてきました。

婦人民主クラブの三十五周年に当って、縮刷版を六冊にまとめ発行します。

- 第一巻 1946年～1953年(既刊)
- 第二巻 1954年～1959年(〃)
- 第三巻 1960年～1965年(〃)
- 第四巻 1966年～1970年(近刊)
- 第五巻 1971年～1975年(未刊)
- 第六巻 1976年～1980年(〃)

●お申し込み方法

頒布価額 40000円(全6冊)

※価格は送料を含んでいません

送金先

郵便振替 東京8・196455

婦人民主クラブ

銀行振込 富士銀行青山支店

普通預金65282

婦人民主新聞 佐多桐子

婦人民主クラブ

東京都渋谷区神宮前3-31-18
電話03(402) 3244
大阪府北区中崎西2-4-140
電話06(371) 2429

各地のあごら連絡先

〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 <あごらミニ>編集部 TEL03-354-9014 振替東京0-5264